

専門家と地域住民によるICTを活用した鳥獣被害対策の実施

(長崎県対馬市)

- 地域おこし協力隊制度を活用し、鳥獣被害対策について、専門的観点から指導助言できる体制を整備
- GIS等を活用した防護柵の管理、捕獲状況の可視化等による現状把握とデータ分析に基づいた対策
- 被害相談会の実施や市内の小中学校において鳥獣被害対策の授業を行うなど、地域一体の取組み

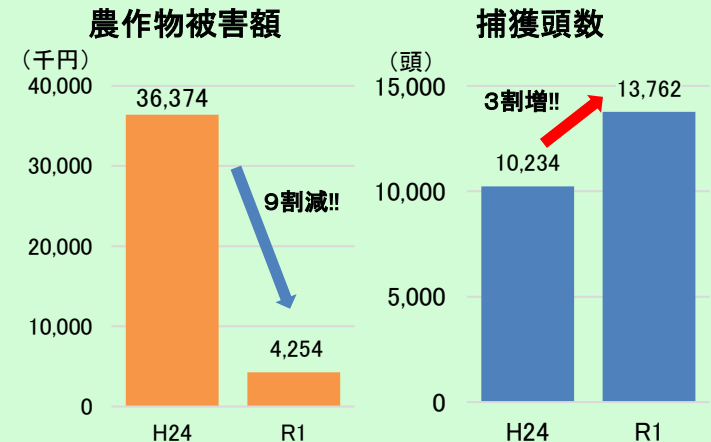
取組内容

- ① 有害鳥獣専門職員を配置
 - 地域おこし協力隊制度を活用し有害鳥獣ビジネスコーディネーター(獣医師)を配置
- ② 現状把握とデータ分析
 - 防護柵の設置位置や種類、管理状況等の調査による実態把握
 - 捕獲従事者全員にGPS機能つきカメラを貸与し捕獲位置情報を調査
 - 捕獲現場の状況確認による効率的な捕獲方法を調査
- ③ 地域一体の捕獲対策
 - 地域住民を対象に被害相談会を開催。防護、捕獲対策を指導
 - 捕獲隊を対象に、罠の設置、見回り、餌やり、止め刺し、埋設等一連の作業を指導
 - 捕獲従事者を対象に、被害状況の現状や効率的な捕獲対策の最新情報を紹介
 - 島内の小中学校で鳥獣害対策授業を実施
- ④「獣害から獣財」の取組み(有効活用)
 - 地域住民の協力体制を構築するため捕獲したイノシシやシカをジビエやレザー等の資源として活用(ソーセージ作り体験会やレザークラフト講座の開催)

※②～④の取組について、専門職員が中心となって活動を展開

成果

- 防護柵と捕獲の状況をGISで可視化し、被害相談会や捕獲従事者の研修会で説明、検討することで地域住民との情報共有や捕獲従事者との連携が強化
- 捕獲隊設置推進により自分の地域は自分で守るという地域全体の鳥獣被害防止への意識が向上
- 農作物被害は9割減少し、イノシシやシカの捕獲頭数は3割増加



専門家と地域住民によるICTを活用した鳥獣被害対策の実施(長崎県対馬市)

きっかけ・背景

- 対馬市は面積の89%が森林で、木材生産やしいたけ栽培が盛んな離島
- イノシシによる農作物被害や、シカの生息頭数が4万頭を超えて、林業や生態系への被害が顕著



防護柵設置状況をGISで可視化

課題

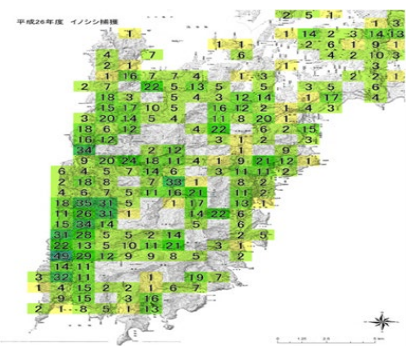
- イノシシとシカによる被害が深刻化
- 防護柵の設置促進
- 猟友会との連携強化



捕獲従事者全員にGPS機能付きカメラを配布
捕獲の正確な位置を調査

Step1 体制整備・現状把握 (H25年～)

- 外部人材(有害鳥獣ビジネスコーディネーター)を活用し被害対策を強化
- 徹底した被害対策の現状把握と分析



Step2 研修(H27年～)

- 捕獲従事者向け研修会の開始



取組の特色

- GPS機能付きカメラやGISを活用した実態把握
- 調査内容の可視化による効果的な被害対策の検討
- 地域住民が一体となった捕獲対策
- 「獣害から獣財」への取組(捕獲した鳥獣のジビエやレザーなど資源として活用)

取組による成果・効果

- ICT技術を活用し、7年間で農作物被害が9割減少
- 関係機関と捕獲従事者との連携が強化
- 被害相談会、捕獲従事者や小中学生への研修会等、様々な取組を実施したことで、地域住民が被害対策の主体に
- ジビエ給食や捕獲対策の授業等で子供たちの鳥獣対策に対する関心が向上

今後の課題

- 未だ鳥獣被害は深刻であり、取組の継続と拡大が必要

Step3 取組の維持・発展 (H28年～)

- 被害相談会の開始



- 担い手育成活動

